

みなさんいかがお過ごしですか？すっかり秋らしくなりましたね～小豆沢病院ではインフルエンザワクチン接種が始まりました、もうそんな時期なんですわ♪実習や課題、テストなど超える壁はたくさんありますが応援しています！



救急の日  
に表彰



9月9日は救急の日、救急業務協力者の表彰のため志村消防署の副所長さんから感謝状が手渡されました。外来NSの優しさあふれる対応や救急車の受け入れを断らず行ってきた結果が表彰につながりました。これからも救急対応はじめ患者さんが安心して受診できるように頑張ります！



土曜講座

日程	メニュー	講師
7/18	認知症について学ぼう	看護師
9/19	足浴の実践	看護師
10/17	移乗介助の方法	看護師
11/21	一時救命処置の実践	看護師
12/19	採血の実践	看護師
1/16	糖尿病について学ぼう・栄養指導	栄養士
2/6	口腔ケアの実践	看護師

10月17日 移乗介助の方法



今回の土曜講座は移乗介助の方法です。車いす⇄ベッドなどボディーメカニクスを活用して行くと腰痛予防にもなります。またストレッチャー体験も行い患者さんの気持ちを考えてみましょう。

13:50 小豆沢病院外来待合室集合

申し込み方法は簡単です

電話かメールで参加しますと伝えるだけです。当日は動きやすい服装と筆記用具持参で参加してください。資料の準備などがあるため10/14(水)17時まで申し込みをお願いします。

電話：03-3968-7993 (看護学生室直通 担当者：村上、峠)

メール：kangakusei@kenbun.or.jp

学校名、学年、名前を記入し土曜講座参加とメールしてください。

10月の土曜講座は  
足浴を行いました



全てのお申込、お問合せは小豆沢病院学生室(村上・峠)まで

直通 TEL: 03-3968-7993 E-mail: kangakusei@kenbun.or.jp

携帯 TEL: 080-1236-0698

小豆沢病院学生室は看護学生の応援をする事で、将来一人でも多くの看護師が誕生する事を願っています。そのために看護体験や土曜講座など様々な企画を行ない、通信を中心にして参加を呼びかけています。また、それ以外にこちらから病院及び関連施設におけるボランティアのご協力をお願いする事もあります。皆さんの個人情報はそのための為に活用しています。お申し出があった時には通信の停止、名簿からの削除を速やかに行いません。



2016年卒募集中!!

地域を支える医療・看護 一緒にやりませんか

# 病院見学説明会

インターンシップ付き



私たちの病院は、いつでも、どこでも、だれでも安心して受けられる良い医療を地域の人々とともに作りあげてきました。私たちは、患者さまの生活や労働の実態も見つめ、豊かに人間らしく生きることができるよう援助することをめざし、「やさしさと思いやり」を抱いて患者様を看護しています。「患者さまのことを一番に考える看護師になりたい」そんなあなたを私たちは求めています。ぜひ、見学にいらしてください。

## 随時開催

### 申し込み・問い合わせ

小豆沢病院看護学生室 峠・村上  
直通電話:03-3968-7993  
mail:kangakusei@kenbun.or.jp



## 奨学生を募集しています!!

小豆沢病院の奨学生制度はお金だけの関係ではなく、毎月奨学金を受けている学生が同じ日に集まり学校での悩みや今やっていることなどを報告したり、医療の情勢を学んだりしています。奨学生になる時期や学校はバラバラですが将来同じ病院で働く仲間として学生時代からの関わりを大切にしています。

### 奨学金説明会

10月31日(土)10時~12時

・事前にお問い合わせください



### 「在宅で」の患者の思いを全力で実現

小豆沢病院の地域包括ケア病床は2014年5月24床からスタートし8月からは45床の地域包括ケア病棟になりました。入院される患者さんは急性期病院での治療後にリハビリテーションの継続や在宅調整を目的に転院される方が大半を占めていますが、看取り目的で入院される方もいます。

今回、肺がんの末期と診断されたA氏との関わりについて振り返りたいと思います。A氏は40代男性。独居で親とは疎遠状態。仕事はしておらず生活保護を受給。大学病院で放射線治療などをしましたか、全身状態が悪化し積極的な治療はできないと判断、また独居で通院が困難などの社会的な事情もあり緩和ケア病棟入院までの待機目的も兼ねて当院に転院となりました。

転院当初は吐き気が強く会話をするのも辛そうな状態で、終日傾眠状態でした。しかし、麻薬などの内服調整により症状は改善し歩行できる状態になり、A氏から「大学病院にいる時に死にかけた。あの時は死ぬかと思ったけど今は元気になって感謝している。あとどれくらい生きられるかわからないけど家で生活したい」という言葉が聞かれるようになりました。A氏の思いを受けて早々に自宅に戻れるよう在宅調整を開始しました。担当看護師が中心となり、訪問診療・訪問看護の依頼、介護保険の申請、事業所・ケアマネの依頼、合同カンファレンスの開催など在宅療養ができるよう調整をすすめ自宅に退院することができました。

私たちの看護は患者さんの思いからスタートします。その思いが叶えられるよう担当看護師はすぐに行動を開始したこと、また急な依頼でありながら在宅部門が快く引き受けて頂いた事がとても心強く感じた事例でした。

最後に…A氏は退院後、大学病院に受診をして再度抗癌剤治療ができると言われて再入院をされましたが、その後すぐに急変されお亡くなりになりました。当院を退院して2週間後の出来事です。A氏のご冥福をお祈りいたします。

(地域包括ケア病棟 看護師長…東京民医連新聞9月5日発行「輝け看護!」より)



#### <応募資格>

- ・看護師・保健師養成機関在学者または入学決定者。
- ・養成機関卒業後当院に就職する意志があり、奨学生活動に参加できる者。

#### <給付金額>

月額/5万円 返済なし  
東京都、日本学生支援機構など併用可